

## 【AZ521 細胞についてのお知らせ】

東北大学加齢医学研究所附属医用細胞資源センターにおきまして、ヒト胃癌由来細胞株として供給してきました AZ521 細胞ですが、当該細胞株が胃癌由来細胞株ではないことが最近の解析により判明致しました。多大なご迷惑をおかけする結果となりましたことを、深くお詫び申し上げます。

当センターでは、近年ヒト細胞の識別方法として開発された STR-PCR 法を用いてヒト細胞株の持つ遺伝子多型解析を導入し、細胞の起源の確認を進めております。この方法により当センターで保有するヒト胃癌細胞株 AZ521 を解析しました結果、このたびヒト十二指腸癌細胞株 HuTu 80 という異なる細胞株と同一の STR パターンを示すことが判明いたしました。このことは、両細胞株が同一個体由来であることを示します。

AZ521 細胞は、日本人研究者によって日本で樹立され、1989 年に論文発表されている胃癌由来の細胞株とされてきました。一方 HuTu 80 細胞の樹立は 1968 年であり、1973 年に ATCC に寄託された十二指腸癌細胞株です（当センターでは保有しておりません）。従いまして、当センターで保有する AZ521 細胞は取り違えられた細胞であり、また当センターに寄託された時点で既に HuTu 80 と同一個体由来の細胞であったと考えられます。

当センターでは今後、AZ521 細胞株の供給を中止することと致しました。これまでに上記の細胞を御利用頂きました研究者の皆様には、経緯や今後の対応等につきまして、別途ご通知を差し上げることとしておりますが、それに関わらず、ご質問やご要望等がありましたなら、当センターまでご連絡下さいますようお願い申し上げます。皆様には、図らずも御迷惑をおかけすることとなりましたこと、心より深くお詫び申し上げます。

今後とも、細胞バンク事業への御理解と御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2014年4月  
東北大学加齢医学研究所附属医用細胞資源センター  
センター長 松居 靖久